

# 日本酒をめぐる状況

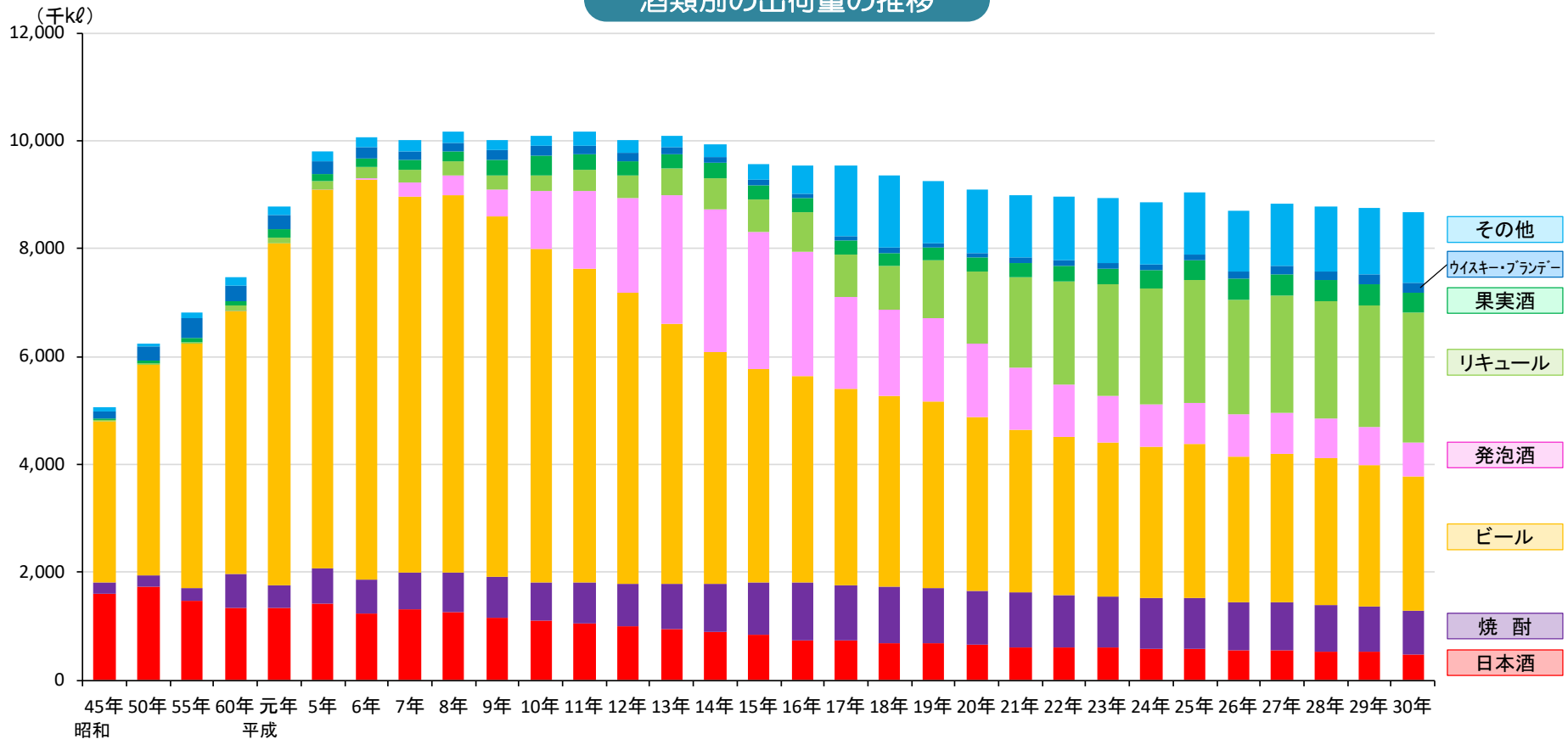
---

令和2年4月  
農林水産省 政策統括官

# 1 酒類別の出荷量の推移

- アルコール飲料全体の出荷量は、消費者志向の変化等により、酒類間での移動を伴いながら、全体ではやや減少傾向で推移。
- 近年では、日本酒、焼酎、ビールなどが減少する一方で、チューハイなどのリキュール、ウイスキーなどは増加。

酒類別の出荷量の推移



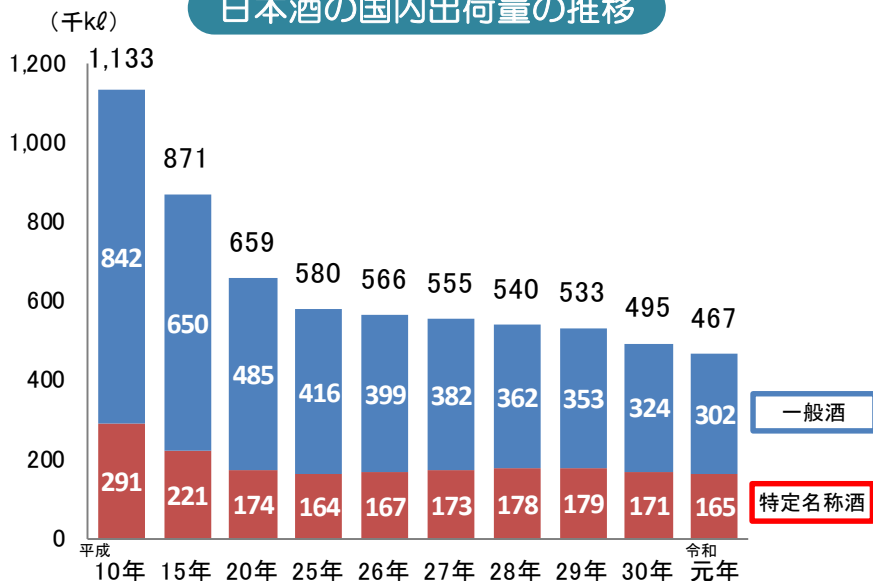
資料：「国税庁統計年報」（国税庁）。年は会計年度。

注：出荷数量は酒類課税数量。焼酎は連続式蒸留焼酎及び単式蒸留焼酎の合計、果実酒には甘味果実酒を含む、その他は合成清酒、みりん、スピリッツ、その他醸造酒等の合計。

## 2 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万klを下回る水準まで減少。
- 一方、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、消費者の志向が量から質へと変化していることから、国内出荷量全体に占める特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の割合は増加傾向で推移。
- 平成30年は、日本酒の国内出荷量が前年比▲7%と大幅に減少し、特定名称酒についても、純米吟醸酒は前年並みであったものの、本醸造酒等の減少により特定名称酒全体としては減少に転じた。令和元年においても、国内出荷量は前年比▲6%となっており、前年と同様の傾向が続いている。

### 日本酒の国内出荷量の推移

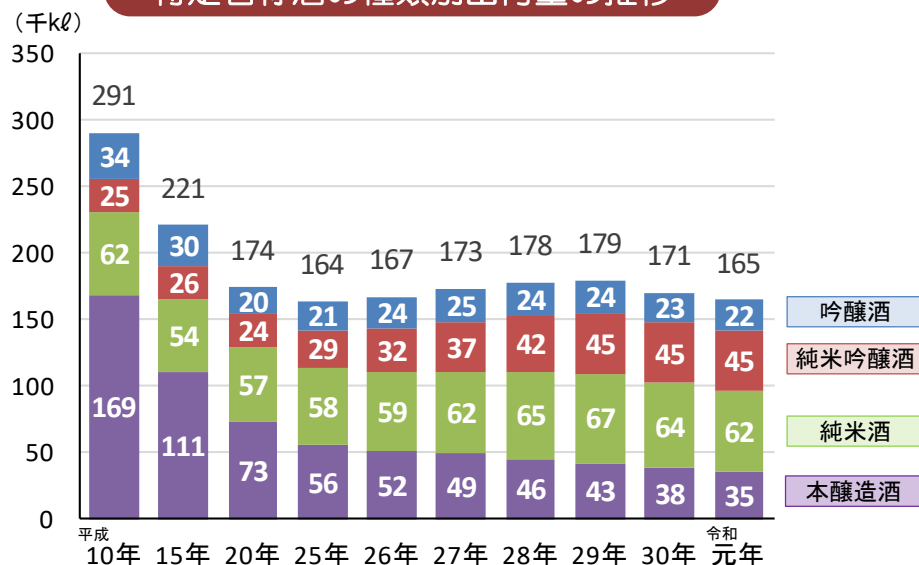


資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

### 特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量で、元年は概算値。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

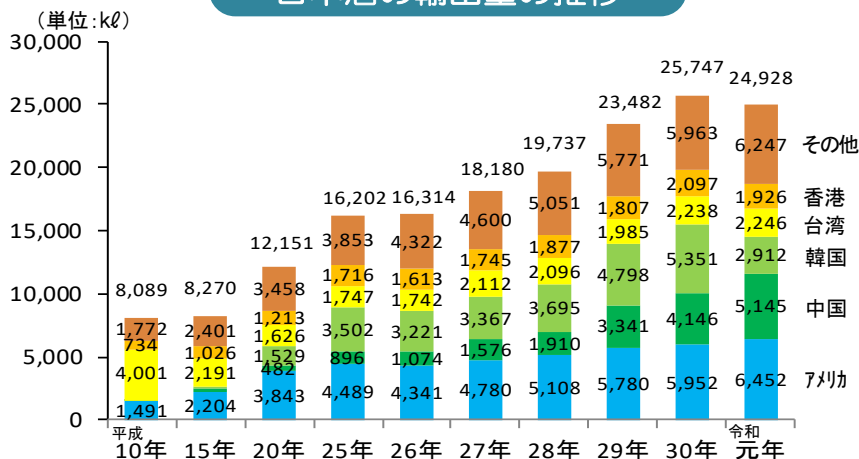
### 日本酒の国内出荷量に占める特定名称酒の割合

10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年
26%	25%	26%	28%	30%	31%	33%	34%	34%	35%

### 3 日本酒の輸出の状況

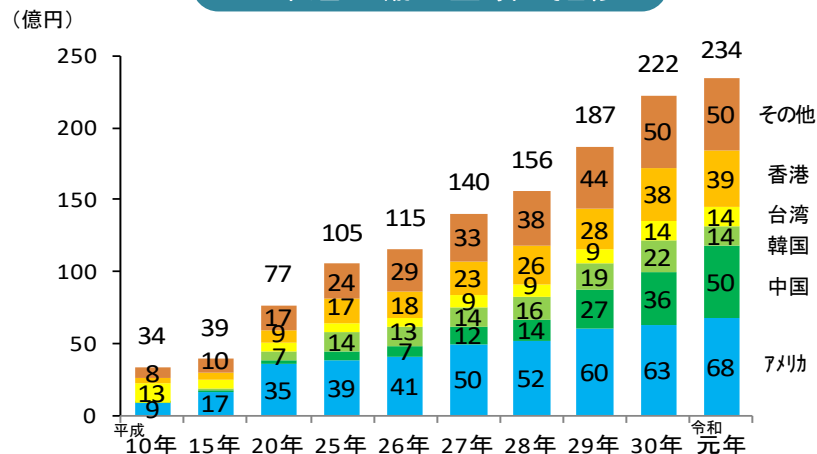
- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量は、日本食ブーム等を背景に増加傾向にあり、令和元年の輸出数量は約25千kℓと、この10年で倍増。また、日本酒の全出荷量に占める輸出量の割合は約5%。
- 一方、日本酒の輸出金額は、平成25年に初めて100億円を突破して、令和元年には234億円となり、この10年で約3倍の伸びとなっている。
- 令和元年における日本酒の輸出先国は69ヶ国で、このうち、アメリカ、中国、韓国、台湾、香港の5ヶ国・地域で数量は約7割、金額は約8割を占めている。
- 平均輸出単価は、1ℓ当たり939円となっているが、国別に見ると香港2,047円/ℓ、アメリカ1,047円/ℓと平均を上回る水準であるのに対し、台湾605円/ℓ、韓国467円/ℓは平均を下回る水準。
- 令和元年は、輸出量が減少に転じており、今後の動向に注視が必要。輸出先では、アメリカ、中国への輸出は増加している一方、韓国への輸出は大幅に減少。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の輸出金額の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の全出荷量に占める輸出量の割合

10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年
0.7%	0.9%	1.8%	2.7%	2.8%	3.2%	3.5%	4.2%	4.9%	5.1%

注：年は暦年。

輸出先国別平均輸出単価

	平均	香港	アメリカ	中国	台湾	韓国
元年	939	2,047	1,047	972	605	467

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

## 4 日本酒の輸出促進の取組

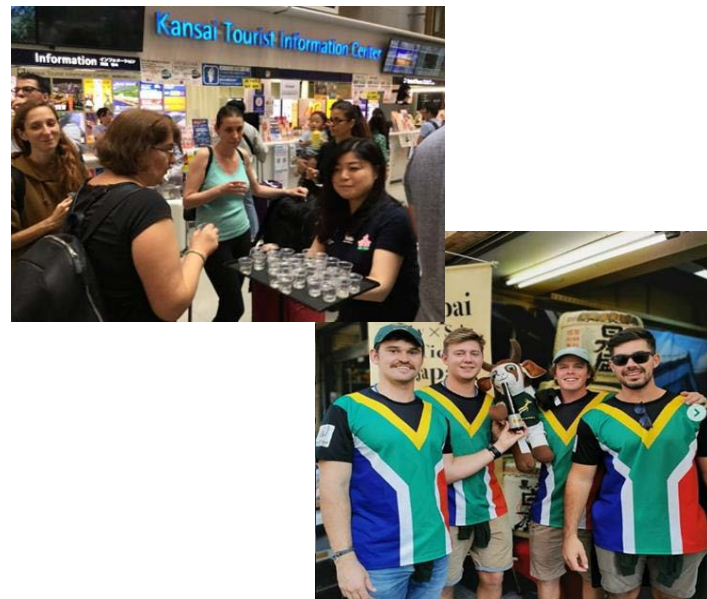
### 第2回アジア国際美酒コンテスト (SAKE CHINA 2019) (2019年7月) (中国)

2019年7月、日本酒の輸出の伸びが顕著な中国（北京）において、1,200人もの一般消費者が108本の本物の日本酒を審査し、中国人の嗜好に合った受賞酒を選定するコンテストを実施。



### 訪日外国人観光客向け 日本酒試飲体験プロモーション (2019年9～12月)

ラグビーワールドカップ2019日本大会開催に併せて訪日外国人観光客に対して日本酒の試飲体験やSNSを使用したデジタルプロモーション等を実施。帰国後も日本酒を購入できるように日本酒を購入できる店舗・レストランを紹介。



## 5 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米である山田錦、五百万石などの「酒造好適米」が使用されており、酒造好適米については、契約栽培を中心に取引されている。
- 日本酒原料米の使用量については、日本酒の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、
  - ① 平成25～29年産は、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒及び輸出量が増加傾向にあったため、24～25万トン程度で推移。
  - ② 平成30年産は、日本酒の国内出荷量が大幅に減少するとともに、特定名称酒についても減少に転じたこと等から、約23万トン（対前年比▲5%）に減少。
  - ③ 今後の日本酒原料米の使用量については、日本酒の国内出荷量の減少傾向が続いており注視が必要。

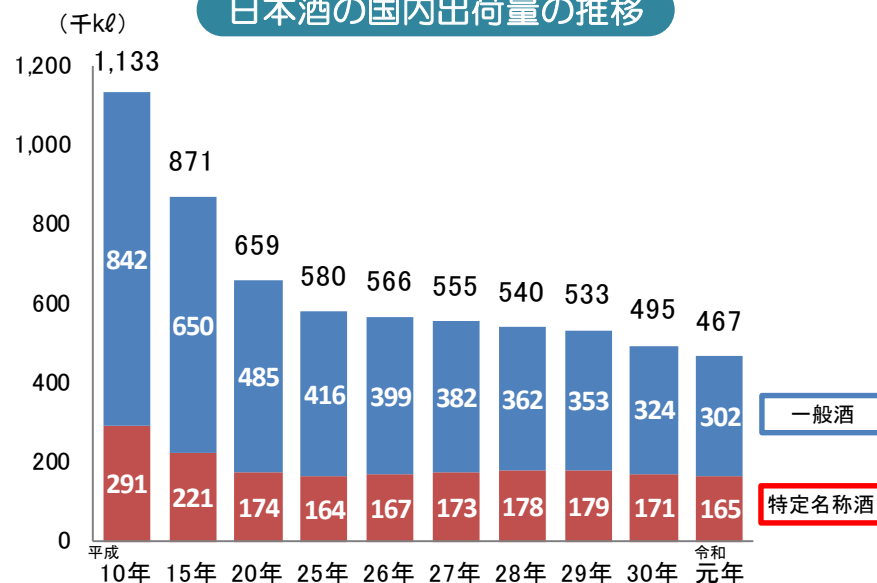
### 日本酒原料米の使用状況

（単位：千トン）

	10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49

資料：農林水産省による推計値。

### 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

# 6 酒造好適米の生産状況

- 令和元年産酒造好適米の生産量は97千トン程度で、このうち、兵庫、新潟、長野、岡山、秋田の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、「山田錦」、「五百万石」は、全国の酒造メーカーからのニーズが多く、この2銘柄だけで酒造好適米全生産量の約6割を占めている。

## 酒造好適米の産地別生産量の推移

(単位:トン)

	平成	28年産	29年産	30年産	令和	元年産	
	27年産					シェア	
全国計	108,797	106,618	102,400	95,856	96,708	100%	
兵庫	30,484	28,217	28,377	25,606	26,045	27%	
新潟	15,943	15,302	12,316	12,404	11,858	12%	
長野	6,689	6,497	6,294	5,786	6,097	6%	
岡山	5,930	5,690	6,283	5,251	5,747	6%	
秋田	4,957	5,112	4,821	4,637	5,034	5%	
その他	44,794	45,800	44,310	42,172	41,928	43%	

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合い推計したもの。

## 酒造好適米の銘柄別生産量の推移

(単位:トン)

	平成	28年産	29年産	30年産	令和	元年産	
	27年産					シェア	
全国計	108,797	106,618	102,400	95,856	96,708	100%	
山田錦	39,528	37,257	38,431	33,916	34,503	36%	
五百万石	27,078	26,030	20,564	21,203	19,324	20%	
美山錦	7,838	7,513	7,018	6,408	6,604	7%	
雄町	2,886	2,481	2,873	2,723	2,954	3%	
その他	31,467	33,337	33,514	31,607	33,323	34%	

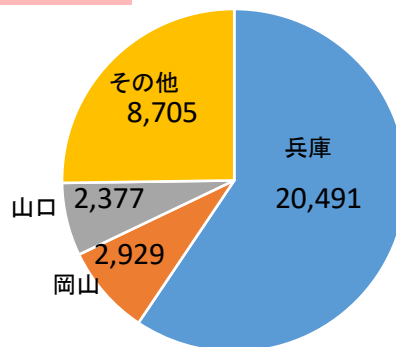
資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合い推計したもの。

## 令和元年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

### 【山田錦】

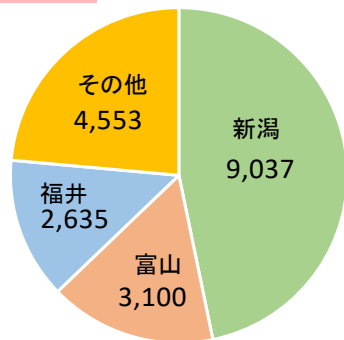
(単位:トン)



	元年産	シェア
兵庫	20,491	60%
岡山	2,929	9%
山口	2,377	7%
その他	8,705	26%

### 【五百万石】

(単位:トン)



	元年産	シェア
新潟	9,037	43%
富山	3,100	15%
福井	2,635	12%
その他	4,553	21%

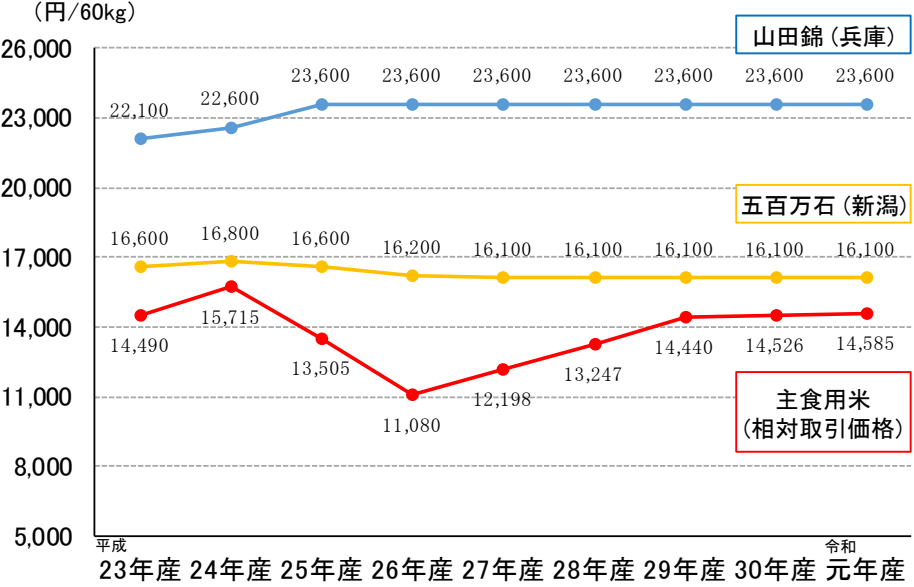
資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合い推計したもの。

# 7 酒造好適米の需給・価格状況

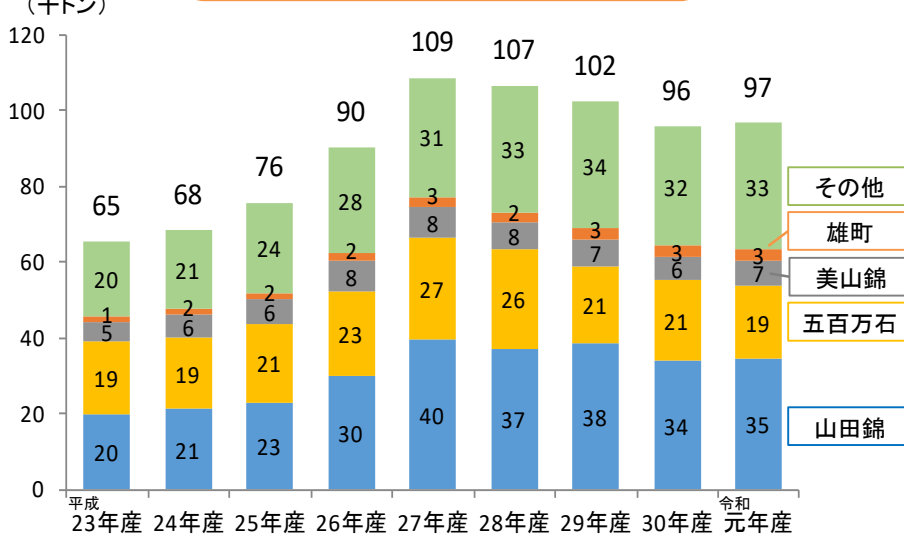
- 酒造好適米は、主食用品種に比べて栽培が難しく、収量が低いこと等から、日本酒原料用として販売される酒造好適米の取引価格は主食用米に比べて高値で取引される傾向にある。
- 平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格の大幅下落等により、酒造好適米の生産へシフトしたこと等から、平成27年産酒造好適米の生産量は急増し、需要量（推計値）を1万トン程度上回る生産となった。
- 平成28年産以降の生産量は減少しているものの、最近の日本酒出荷量の急減に伴い、酒造好適米の需要量も減少傾向にあり、供給過剰が続いている状況。

原料米の販売価格の推移



注1: 酒造好適米（日本酒造組合中央会からの聞き取り）は、1等米の販売価格  
 注2: 主食用米（相対取引価格）は、出回りから翌年10月（元年産は令和2年2月）までの1等米の通常平均価格であり、包装代、運賃を含み、消費税相当額を含まない。

酒造好適米の生産状況



資料：「農産物検査結果」（農林水産省）  
 注：元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合い推計したもの。

酒造好適米の全体需要量（推計）

27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産
98～100	96～98	93～95	87～89	88～90	87～89

注：令和元年産及び令和2年産の需要量は、令和元年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する可能性があることに留意する必要がある。



## 8 酒造好適米の需要に応じた生産について

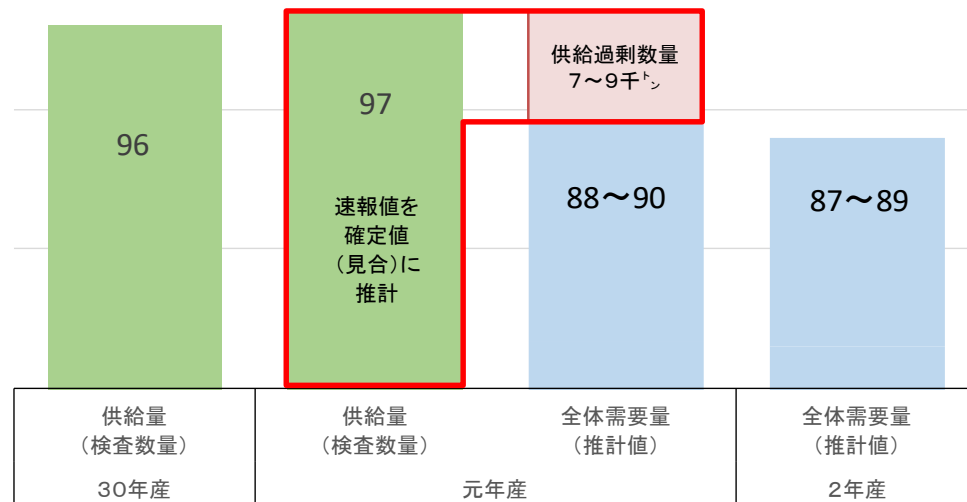
- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施し、調査結果等を公表するなど、酒造好適米の需要に応じた生産を推進。
- 令和元年7月に実施した需要量調査によると、
  - ① 令和元年産酒造好適米の全体需要量は、88～90千トン程度と推計され、令和元年産酒造好適米の需給は、生産量が需要量を7～9千トン程度上回る
  - ② 令和2年産酒造好適米の全体需要量は、87～89千トン程度と推計され、令和元年産からわずかに減少と見込まれる。

### 酒造好適米の需要量調査の実施状況

	令和元年度
調査期間	令和元年7月
調査対象メーカー数	1,430社
回答酒造メーカー数	763社
回答率(数量ベース)	82～84%

### 酒造好適米の全体需給見通し(推計)

(単位:千トン)



注1: 供給量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。

注2: 令和元年産及び令和2年産の需要量は、令和元年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する可能性があることに留意する必要がある。